

ウメ果実に食入するアカマダラケシキスイの物理的防除 ぶつりてきぼうじょ

果樹試験場

研究のねらい

近年、和歌山県産の梅干しに混入するアカマダラケシキスイ幼虫（主に終齢）に対する消費者の苦情が増加傾向にあります。地面に4mm目のネットを敷き落果果実を集める収穫法においてのみ混入被害が発生しています。梅干しは健康食品のイメージが強く、薬剤以外の防除法が望まれていることから、物理的防除法を検討しました。

研究の成果

- ① 傾斜地の地面に4mm目のネットを敷き落果果実を集める収穫法において、果実が停留する部分だけを約10cm程度掘り下げ鉄パイプで収穫ネットを浮かせて、果実を地面から離すと幼虫の寄生を防止することができました（図1）。
- ② 幼虫が食入したウメ果実を個別に水浸漬処理すると、10分以内で約8割の幼虫が果実から離脱し、30分以内ですべての幼虫が離脱しました（図2）。
- ③ 幼虫が食入した多数の果実を同一の容器に水浸漬処理すると、果実の重なり合い等の影響から個別浸漬処理に比べ離脱時間は長くなるが、30分以内で96.2%の幼虫が果実から離脱し、1時間以内で全ての幼虫が離脱しました（図3）。

成果の活用面・留意点

- ① 収穫ネットの果実が溜まる部分の改良は果実が転がり集まってくる傾斜地のみで適用できます。また、果実が停留した重みで地面に接しないように注意が必要です。
- ② 水浸漬による収穫果実への影響については40分～1時間浸漬した場合でも梅干しの漬け上がりに何ら問題はありませんが、作業工程の軽労化を検討する必要があります。

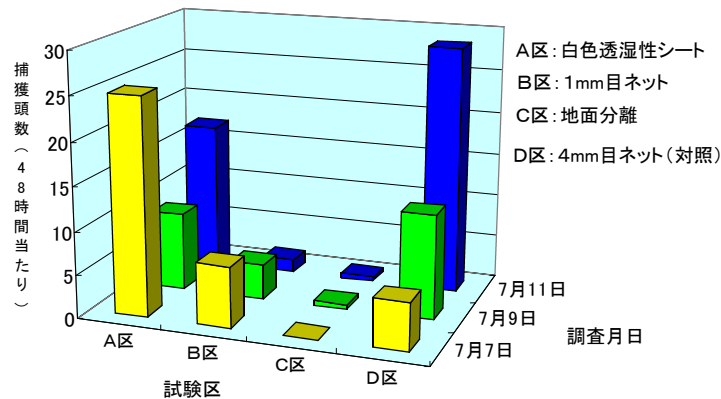


図1 果実停留部に対する各種処理による終齢幼虫の防除効果(2003年)

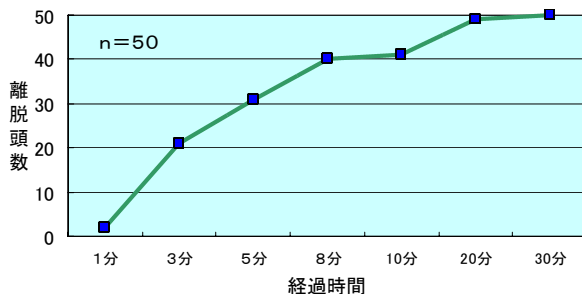


図2 個別果実水浸漬による終齢幼虫離脱率の時間的経

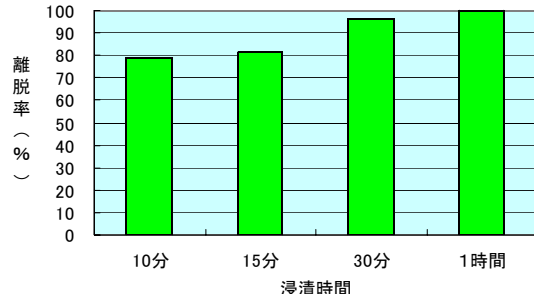


図3 多数同時水浸漬による終齢幼虫離脱率

(問い合わせ先：0737-52-4320)